



③ 小学校で自分の考えを伝え合っている児童たち



① 幼稚園で友達と一緒に遊び、話し合っている様子



② 自分たちにできることを考えて運動会の準備をする5歳児



園庭を元気に走り回る黒田庄幼稚園の園児たち

こども園ではさまざまなことと興味関心を示し、主体的・意欲的に取り組んでいこうとする「学びに向かう力」を

■西脇市の取り組み「学びをつなぐ」

西脇市では、保育教諭と小学校教諭が、こども園と小学校それぞれの過ごし方や学び方の違いを理解することからスタートしています。子どもたちが感じるギャップを少しでも減らし、伸び伸びと生活できるようにきめ細やかに関わっています。

園小接続カリキュラム
西脇市では、包括連携協定を締結している兵庫教育大学の鈴木正敏教授による指導・助言のもと、5年度に園小接続カリキュラムを策定。6年度からその本格運用を始めています。
子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、民間のこども園と公立の小学校が連携して最適な環境づくりに努めるなど、園小の円滑な接続に向けた「学びをつなぐ」取り組みを進めています。

園小接続の西脇市の取り組み こども園から小学校へ「学びをつなぐ」 小1はゼロからのスタートじゃない

▶問合せ 幼児教育センター (☎22-2432)

育む……。小学校では園で培ってきた力を生かす……。
そのような環境づくりに取り組むことが大切と考えています。
①自己発揮できる環境づくり
◆こども園での話し合いと、小学校での意見の主張
写真①は、こども園での話し合い活動の様子です。「遊びの中の目的を達成するために、どうすればいいか」思いや考えを友達と一緒に出し合いながら活動を進めています。
こうした活動が小学校入学後、自分の思いや考えを素直に伝えたり、困ったときに助けを求めたり、授業で考えたことや思ったこと、感じたことを自分の言葉で話す力につながります。
◆こども園で主体性を育み、小学校で主体的に活動する
こども園では、園児の主体性を大切にしています。写真②は運動会での演技の準備をしているところです。「何が必要か」「自分たち

小1プロブレム

小学1年生が学校生活にないじめず、集団行動を取れない。じっと座って授業を聞けない……。
こういった状態は「小1プロブレム」と呼ばれています。遊びの時間が多いこども園と、時間割に沿った行動が求められる勉強が中心となる小学校では、環境が大きく変わります。こうした生活環境の変化が、小1プロブレムの主な原因とされています。その解消に向け、西脇市ではこども園と小学校の円滑な接続を推進しています。

文部科学省においても、特に義務教育開始前後の5歳児から小学1年生までの2年間を「架け橋期」と呼び、幼児・小の円滑な接続・幼児教育と小学校教育のつながりを意識した活動を推進していく「幼保小の架け橋プログラム」をスタートさせています。その中で、保育教諭と小学校教諭が協働して架け橋期のカリキュラムを作成することを推進しています。

「できることがないか」を考えて行動に移すことで、主体性が育まれます。
また、こども園では、年長の園児たちが一番年上になります。年下の園児たちから頼りにされることで意識が高まり、自信がつくことでより主体性が育まれていきます。

写真③は小学校で1年生が運動会を楽しくする工夫について話し合っているところです。「1年生だから、できない」ではなく園で育んだ力を生かし、自分たちでできることを考えます。

1年生は先生や上級生と関わりながら、「学校は安心できる場所」ということを知ることで、少しずつ自分の個性を発揮できるようになります。





教諭の熱意が育ちや学びにつながる

園小接続の取り組みは全国的に進められていますが、民間のこども園と公立小学校が一体となってカリキュラムを作り、その取り組みを公民が連携しながら進めている西脇市の事例はととても珍しいものです。

スムーズな連携にはこども園の保育教諭も小学校教諭も、みんなが同じ方向を向いて取り組むことが大事。そのためには、園小それぞれの環境を知ることが何より重要です。取り組みが始まり、保育教諭と小学校教諭が緊密に話し合ったことで、小学1年生のスタートが劇的に変化しました。教諭の熱意が子どもたちの安定した育ちや学びにつながっていると感じています。

兵庫教育大学 鈴木 正敏 教授

西脇市の取り組みは 公民が連携した好事例



「園小架け橋研修」で意見交換する保育教諭と小学校教諭

④

発想や創造を学びに

園小接続の取り組みによって、小学1年生はゼロからのスタートではなく、すでにこども園で育まれた基礎が身に付いていることを実感しました。

また、早く学校の環境に慣れることが自分の良さをおのずと発揮することにつながると感じています。

こども園で培ってきた児童たちの発想力や創造力を引き出し、学校での学びに生かせるような環境づくりを心掛けています。

双葉小学校
川上 未起子 主幹教諭

遊びから学びの基礎を

こども園では小学校入学を見据え、遊びから学びの基礎を作り、小学校での学びに生かせるように取り組んでいます。そのためにはまず、私たちが小学校の教育を理解することが大事であると考えています。

保育教諭は小学校の教育現場を見学したり小学校教諭と交流したりして、就学前教育に生かしています。

黒田庄こども園
荻野 隆之 園長



②安心できる環境づくり
◆こども園と小学校での絵本の読み聞かせ
こども園では毎日、絵本の読み聞かせをしています。園児たちはこの時間が大好きで、大好きな先生の声で絵本の世界に入り、イメージを膨らませることで豊かな心を育みます。
小学校では、特に入学後しばらくは、朝の会などで絵本の読み聞かせや手遊びなど、こども園でやってきた活動を取り入れていきます。親しんだ活動を取り入れることで、児童たちが安心感を持てるようにしています。
また、こども園と違い、机



靴箱の使い方はこども園も小学校も同じ

⑤

に座って勉強することが多くなりませんが、小学校でも床に座るなど、こども園に近い環境で学習する工夫も取り入れ、小学校の学習環境に順応できるようにしています。
③学びをつなぐ環境づくり
◆整理整頓と一日の流れ
靴の置き方は、こども園でも小学校でも同じルール。置く場所や置き方、使い方が分かるように表示しています。写真⑤。
小学校では教室に時間割が貼ってあります。こども園でも園児たちが一日の流れが分かり見通しを立てられるように、絵などで示しています。写真⑥。



絵などで示されたこども園の一日の流れ

⑥

◆園と学校の相互理解
保育教諭と小学校教諭が、それぞれの学び方や環境の違いを理解するために、相互に教育現場を見学したり、一緒に研修を受けたたりしています。写真④。
また、認定こども園・小学校接続カリキュラム研究委員会を設け、園小接続カリキュラムの策定、カリキュラム運用後の検証や改善について、保育教諭と小学校教諭が情報交換をしながら研究を重ねています。
このように西脇市では、こども園と小学校が密接に連携し、接続期における指導をより充実できるように取り組んでいます。